



Title	シンポジウム「手工芸とデザイン 伝統的形態と現代的展開」
Author(s)	上羽, 陽子
Citation	デザイン理論. 2012, 59, p. 125-125
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53504
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

シンポジウム

「手工芸とデザイン — 伝統的形態と現代的展開」

総合司会：上羽陽子／国立民族学博物館

発表者：天貝義教／秋田公立美術工芸短期大学

土田真紀／帝塚山大学

伊藤敦規／国立民族学博物館

上羽陽子／国立民族学博物館

シンポジウム趣旨

現在、世界規模で展開される急速な工業製品の流入やグローバル化によって、手工芸文化を取り巻く状況が著しく変化している。本シンポジウムは、手工芸とデザインについて、歴史的視点と、フィールドワークを通した手工芸の生成の現場からの動的報告といった幅広い視点から得られた成果をもとに個別のテーマを設定し、近代工芸における「伝統」とはいったい何かといった観点から、近代工芸を捉えようとする試みである。同時にシンポジウムで議論される題材として、第53回意匠学会大会会場となる国立民族学博物館において、新構築された本館展示場での解説付エクスカーションを踏まえて、世界の意匠やデザインについても取り上げる。

パネリストの発表は、応用美術からデザインへといった歴史的視点、日本の「近代工芸」が形成されていく中での「伝統」のあり方、米国先住民やインドでのフィールドワークを通した製作者の視点によるデザインの応用や流用、戦略的表現方法など多岐にわたり、これらを通して、近代工芸にとっての伝統的形態のあり方、そして、今後の手工芸とデザインの展開について考えてみたい。

(国立民族学博物館 上羽陽子)

